明治二十二年五月廿一日印刷
明治二十二年六月一日出版

(無定價)

婦人衛生會雜誌

第七號

私立
大日本婦人衛生會

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人衛生會雜誌

第七號

目次

衞生叢談　大澤謙二君
產婦及蓐婦の養生　櫻井郁次郎君
小兒保育法　加藤照麿君
衞生法は實行に在り　佐々木政吉君
小兒保育の心得　木寺安敦君
看病の話　仝　君
手療法一則　荻野吟子君
本會錄事

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人衛生會雜誌第七號
明治二十二年六月一日發兌

○衛生叢談（四月例會講演）

大澤謙二 述　佃與二郎 筆記

本月一日始めて出來ました雜誌に「國のもとゐ」と云ふのが御座います、是れは高等女學校の諸教官方が重に御骨折りで、引續いて發兌さるゝと云ふから定めし皆様方も御覧にあッたらうとは思ひますが、其中に該校生徒たるべき者の資格を德智躰美即ち德育智育躰育美育と、此四ッに分かたれて其第三たる身躰を丈夫にする事に就て次の如き事が申して御座います。

勞佚の輪換をして定規あらしめ、起臥の時を定め、飲食を節し、身躰を清潔にし、心意を爽快にし、屢々襯衣を洗濯し、新鮮の空氣を呼吸し、寒暖の急變を避け、毎日運動を爲し、睡眠の分量を充分にし、深更の勉强を禁じ、常に健康を保持する事を務むへし、心配と嫉妬と競爭とは、健康の大敵なる事を察すべし。

是れだけ擧げて御座います、私は此事の説き明かしの積りでは有りませんが、誠に能く身躰の衛生、身躰の丈夫になる事を申したと思ひますから、此順で段々御話し仕様と思ひますが、一番始めの勞佚の輪換をして定規あらしめと云ふのは、何んでも極まッて勞動する様に仕たら宜からうと云ふのです、是れは誠に必要の事と思ひます、既に私は何時ぞや此事の御話しをした事と思ひます、骨をおッて置かないと樂は無い、苦まなければ樂みが無い、元々苦みと云ふ事がなければ人が困るであらうと思ふ、勞動て置いて又遊ぶと云ふ様に致さなければならん、夫れが今日の所殊に御婦人などは何うも爲さる事がズット引續いて居りまして、是れ丈けの事を仕上げて休

もうと云ふ樣な規定が付て居らない、左程酷い骨勞りでも無く年が年中ダラ〳〵となされて居ると云ふ氣味合が御座います、男子の方にも幾分か夫れハ有りますが、學校にでる者とか役人とか云ふ者には日曜と云ふ者が有つて、一週の間骨をおつても日曜に骨休をすると云ふ事に爲つて居る、私共も學校に從事致して居る一人だが若しも日曜がなかつたらハ何う仕樣と思ふ位です、今日でハ誠に日曜を樂んで日々の仕事をして居ります、ソコデ私の考へまするに、今の御子供衆ハ學校で日曜の味を占めて居りますから追々にさうならうと思ひますが、出來る事なら今日から致したい、必しも日曜と定める譯でも無いが、一月中の日を定めて是れ丈けの事を仕樣是れ丈の事をすればハ此日ハ遊ぶと云ふ事を規定し、御自分許りで無く御召使ひの者迄もソウなされたなればハ、却てダラ〳〵と働らゐて居らるゝよりも仕事も進みませうし身體も御丈夫にならうと思ひます。

次に起臥の時を定める事、之に就てハ御婦人方に向てハ斯うありたしと思ふ事も無ひ、誠に今日迄も能通つて居られます、外國などでは左程にハ參つて居らない、私共外國から歸つた當座にハ夜の時間が短くて困りました、十時に歸へらぬと遲いと謂つて叱言を云ハれる、據ろ無しに十時迄に歸ると云ふ樣になつた、是れ全く御婦人の高庇です、若し男許りなら平氣で夜明しとも致すであらうと思ひます、歐羅巴でハ隨分婦人が先き立ちて夜深しを致し、殊に冬向き宴會などの時になればハ夜の三時四時明かるみかゝつてから歸宅し、夫れから寢るから丁度夜を晝に換て居るやうな者です、就中上等社會に多くどうか九時から夜會など云ふ事ハ成丈け御廢しに致しとう存じます、其の身體に好く無ゐ事ハ申す迄も無ひ事です、大抵人の寢なければならぬのハ七時間から八

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

時間で御座いませう、夏冬で少し丶伸び縮み丶御座いますが、我國の一般は大抵是れに適して居りまして別に述べます程の事も御座いません、唯此事をば成るべく嚴密に致されたいと思ひます。

次に飲食を節しと有ります、是れも男の方には隨分狼の如くに食ひ鯨の如くに飲む者もあるが、御婦人方には決してソンナ人は在りません、併し時とすれば殘して置くも惡るくなるし捨て仕舞うも勿躰あいといふ點から隨分御食りに成ります、健康を害してもよいからと云ッて無理に御腹の中へ入れないでも捌け口は隨分有らうと思ひます、序に申すが食物の變らない樣に致すのは冷ッこひ窖がよい、爰へ入れて置く事が出來れば至極結搆で有ると思ひます、又氷の函の中に入れて置けば宜しいが、今日の所で兩方共困難では有りますが何卒私は試めして見たいと思ひます、若し氷の箱が安くて費用が高まらずに能き成績が擧りましたなら後に御話しを致しませう、又飲食の時を定める事は私が何時ぞや當婦人衛生會に於ても述べた事があッたと思ひますが、何うも時に定まりの無きは御同前に不本意の至りです、御承知の通り不意に客でもあると折角思立た仕事もよくは出來ません、食物を消化す道具に於ても其通り不意に口から入れ込むと、ハテ是れは御門違ひでは無いかと思ふかして消化器が旨く働かずあはて丶往けません、私宅あどに於ても度々此事を申して、何卒して極めやうと存じますが私始め何うも極つた事を致しません、夫れ故今日迄充分に行あはれませんが、之れは追々相談の上で規定するやうに致したいと思ひます、私は時刻が兎角遲れまして食事なども一番しまいに膳に付きますが、其傍においしい物でも有つて子供の目に懸ればウマ々々〳〵と云ふて乳兒迄がねだります、何うも據ころ無いから室を替へて內

所で食べ樣かと內々考へて居る位ゐの事です、是れは何方樣に於ても氣を附けなければならぬ事です、又た御客樣には御菓子を出ますが、是れも氣を附けなければならぬと申すは、御客樣は全躰滅多に召し上がる者では無い、所で御客樣が御愛想に「能い御子さんで一ツ召し上がれ」など言はれると、家內で時を定めて居つても御客樣の爲めに折角の定規を過まられる、定た事が行なはれぬと云ふ樣になります、故に成らう事なら御茶位ゐは仕方が無いとして御菓子は廢する樣にしては如何の者かと考へて、實際一二の友達共相談致し我々は特別の請求がなければ御茶菓子は出さぬと云ふ事に致しましたが、誠に氣樂で宜しう御坐います、御菓子ですら其通りですから、マア一獻獻上など〻云ふ事は實に能く無い、既に自身に酒が入間を不規則にすると云ふ事を存じて居るから容易に盃の事は言はないが宜しい、食事の時なれば只今食事で御坐いますから鳥渡御免を蒙むると云ふ位ゐにして居れば先の人が格別の用事でなければ歸りますし、又其人に膳を出すにしても平常自身の家で食べると同樣の者を侑めると云ふ位なら宜しいが、不時に食物を侑め別に馳走するやうな事は致さない樣に致したい者です。

次に**身躰を淸潔にし**、是れは申す迄も無く身躰を奇麗にする事は衛生の本と云ふても宜しい、一人一家のみならず、公衆衛生など申して、一村一市又は一國をして、無病長命の地といたす企も、一身の淸潔が基ひであります、己れの身躰が湯にでも這入つて奇麗になると、誰しも汚ない着物は着たくなくなる、既に奇麗な着物を着れば、見苦しき物が其の邊に散らかつて居つては、心持が惡るいから自然に奇麗に仕やうと思ふ、家の中が奇麗になると家の周ぐり、夫から己れの住まつて居る町と云ふ樣に、次第に望

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

が大きくなつて、遂には日本中を奇麗に仕たいと云ふ事になる、衛生の基礎と申したは則ち爰の事です、又寢衣の時と晴れ着の時とは、心の持方が自づと差ふ者にて、上下を着けて横臥をする人はありません、身躰に「キマリ」がつくと、爲す事に「キマリ」がつき、仕事も自づから捗取ります、私は或處で、衛生と云ひ經濟と云ひ、總て人間の福祉は「キレイ」(清潔)「キマリ」(秩序)の二語にあると申しました、今日は詳しき事を述べません。

次に、心意を爽快にしと云ふ事ですが、是れも誠に必用で有ります、心の快く爽かと申す事は如何ある時に在ると云ふ事を考へて見れば解かります、一日中の事で申せば自分の業を濟して御湯にでも這入ッて、夫から先づ一ト休みする時が一番心持が宜しい、一年で申せば大晦日に總ての仕事をしまッて、一夜明れば元日で其元日の參ッた時こそ第一に心持が宜しいて御座いませう、彼の通りに仕なければならない、心持の宜しいのは藥にある事で御座いますから是非ソウ致さなければなりません、併し此事を委しく申せば餘程六ケ敷き事で、餘り御話が長くなりますから最後に在る心配と嫉妬と競爭の事に就き一言致しましよう、之れは餘り致さない樣にすれば先づは爽快になりませう、勿論心配と云ふ事は生て居る內は仕なければならないが、詰り足る事を知ると云ふ樣になれば宜しい、知足と云ふ事は孔子の教へて中々六ケ敷い事で有ります、ケレドモ無くても宜しいと云ふ譯ではない、御聞なすつた事も有りませうが、希臘のジヲゲチスと云ふ人は悟りを開てしまッて、始めは田地も家も入らないと云ふて人に遣つて仕まい、着物も道具も遣ッて仕まッて、遂には桶の中に這入つて暮して居ッた、腹の減る時分になると、人が可愛相だと云ふて食物を持て來て呉れる、夫れで安心

して居ッたと云ふ面白い人です、或時「アレキサンドル」大王が參ッて何か望はないかと尋られましたから「唯一ッ有ります」夫れは何かと云ふと「アナタも少し傍の方に依て下さい、左も無いと日が當たらないから」と云ふたさうたが、是れは餘り足る事を知り過た話しです、足ることを知るは先づ自身に相應と云ふ事を考へねばなりません、世の中に貴賤貧富の差は色々ありて、歌に「上見れば及ばぬとの多かりき笠きてくらせ己のが心に」、又これをもじりて「下みれば及ばぬことの多かりき上見て通れ兩國の橋」とあるも、身分の不相當の望を戒めたのでありませう、私の考は少し差ひます、見るもよし望を起すもよし、只直にやつて見ようと思ふてはならぬ、何故に彼は然り吾は否らずと其理由を考へねばならぬ、其時までの經歴を考へ、吾は斯く〳〵のとなして是く〳〵の報酬あり、斯くなさば斯くならんと、倍す業務に出精する

企てを起さば、上下を見る方却つて益あることと存じます、濡れ手で粟のつかみ取り仕様と思ふと心配が起るが、一生懸命仕事に懸つて居ると、心配も不平もありません、貧士族とか壯士とか申して不平を鳴らす人は、多くは定まりたる業務のない人であります、又嫉妬も其通りにて、よく考ふると大概自分の方が惡るい者です、競爭も度を越ゆれば害があります、併しまるで止められては困る、エライ人間にならうとか金持にならうとか云ふ考へは無ければなりません、只前にも申した通り一足飛に立身し、濡れ手で粟を攫むやうな事は往けない、高きに上るには卑きよりすとか、勤働の根は苦けれど實は甘しとか考へて居たらば、當前の競爭は仕なければならんが、左程迄に心配と云ふ事はいらない譯になります、從つて心も快くなるでありませう、歌に「怠らず行かば千里の月も見ん牛の歩みのよし遲くとも。」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

屢々襯衣を洗濯し、是は肌衣を洗濯すると云ふ事で已に永井さんが洗濯と云ふ演題にて述べられ、私れ其演說筆記を見たいと思ひましたが、未だ雜誌は出來ませんから其趣きは知りませんが、何れ屢々衣服を洗濯するがよいとか、又白い着物を着るがよいとか、鼠色の服は汚れないと云ふが、實は汚れないのではなし汚れたのが知れぬのであるなど、御述べになられた事と思ひますから別に申ません。

新鮮の空氣を呼吸し、之れも長與先生の空氣の說があッて充分盡されて居り、是れより外に申上げる事も有りませんから略します。

次に寒暖の急變を避け、と云ふは急に暖かく、急に寒い事は能くないと云ふので、勿論知れ極ッた事で、部屋に居る時からして襟卷を爲し外套を着て居れば、外の冷たい空氣に觸れる時も、夫れより外に暖かく仕樣が無いと云ふ事になるから、外に出る時斗り用ゐる樣に致したい、日本の是れまでの有樣なれば、內と外とは格別違わないから宜しう御座いますが、ストーブでも焚く西洋造りの家が段々出きると能く注意しなければならん、尙ほ爰に一ッの御注意を願ひたいのは、寒暖の急變に逢ッても風も冒かないと云ふ樣に仕たいと思ひます、是れは此席で佐々木さんが冷水浴の御話しがあッたと思ひますから、私が別に述べる迄も御座いません。

每日運動を爲し、此事に就ても佐々木君が演べられた事が半分ばかり雜誌に出て居ります、それから長谷川君も婦人の運動の必要を述べられた事があります、併し中以下の婦人即ち私の家內などは隨分よく運動をします、小供の世話から、洗濯、臺所の世話まで自身にして中々能く運動をします、日本婦人の運動が少ない〳〵と云ふのは、つまり上等の人に少ないので、中以下の婦人にあつては、外に出るのが

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

少ないだけて、隨分家の中では運動しております、斯く申せばとて中以下は運動足りとは云ひ兼ねますが、殊に貴婦人方に向つて之を御勸め申したい、日本では自分の庭廻りなどで青々とした所が見られます、是れも一ッの外に出ない所以で御座ませう、西洋では公園に行かなければ、青樹などゝ云ふものは殆んど見ることは出來ません、三間四方に足らぬ程の地面があると「何うも立派な庭だ」抔と誇るものがあります、夫故公園に出て樂しむと云ふのが多いのだらうと思ひます、兎に角我國にて公園を利用する人の少きは歎はしき事であります、左れば私は皆樣方に向ても上野とか淺草とか云ふ所に出て、心を慰められる事を御勸め申さなければならん、又御小供衆の爲めに御勸め申します、御承知の通家にばかり居るとどうもノビ〳〵致しません、小供などには廣ろ〳〵とした處を、飛びまわつて歩るくのが餘程爲になるのです、私は上野が近處だから家内などには勸めますが、兎角出ぶしようで困ります、成るべく友達申合せ小供を連れて行くことに致し、遊ぶ度數もモー少し多く致したい、又高貴なる婦人などでは、今の樣な臺所で働くこともなし、茶の湯、挿花、歌、音樂位にて、是れぞと云ふ運動はありません、近來舞踏が始まり是も運動の中ではあり、やらないよりイゝかは知れませんが、兎角舞踏のやりすぎもあります、されば、之に換ゆるに何かよき運動もなと考がへましたが、是れぞと云ふ旨い考へも浮みません、どうも日本人殊に下等の人民になれば、五官の中で最下等の味ひたり嗅いだりすることを先にして、耳や眼を樂しましむる事は少ない、先づ高貴の人から戸外遊歩殊に天然の美を稱するの念慮を起されたき者であります。

睡眠の分量を充分にし、と云ふとは起臥と申す所で

演べましたから玆には別に申しません。深更の勉強を禁す、是れも御婦人には格別に其の弊を見ない、事に依ると、明日は花見に往くとか芝居に御出掛にあるとか云ふと、前晩に明日の御準備を深夜をも厭はずに爲さる事が御座いませうが、夫れは稀の事です。

是れで先づ玆に出て居る箇條に就ての御咄しは濟みましたが、全躰外に出たり心易き友達同志互に見舞たりなどする事が、日本に少ないのは何ふ云ふ譯で有るかと私が考へて見ました、夫れは色々原因の有る事で御坐いませうが、何分にも手重いと云ふのが一ッの原因に成て居りは仕ないかと思ふ、何か進物を持ッて往かなければ那處の家には往かれ無いと云ふ樣では甚だ手重い、又外に出るにもよい衣物と着替て往かなければならんと云ふ樣な心配が有ッては甚だ手重くある、是れ等が原因と成ッて出慚性と云ふ事に成るのと思いますから、成る可くは此の手重いと云ふ事を省き度いと存じまして、私共贈答應止會杯と云ふ相談も致しました、けれども中々行はれません、一二の友達には互に贈物を致しませんから誠に氣樂で御座りますが、婦人同志の間には未だ中々行はれ兼ます、向ふから下すつても此方は約束だから貰ひ放しにするがよいと申しますが、家內は中々承知いたしません、御承知の通り、態々遠方から出掛けて參つても「恰度御門口を通りましたから御寄り申しました」と云ふのは、餘程先方を察した言葉であります、併しながら何もソンナに虚言まで吐くにも及ばぬ、今日は間暇だから見舞に來たと云ふ方が結句安心で御座いませう、夫から物を贈るに金を出して買た物でも「幸ひ到來致したから」と云つて遣る、如何にも先方で心配せぬ樣にさう申すのかは知れぬが、何にも左程隱すには及ばぬ、又た「御

目に懸る程の物でもない粗らん物で御座いますが」と云ふのは、先方を貴び自分を卑下し過ぎた詞であります、夫れよりは「貴所方には粗らんものでも私は一所懸命で買つて參りました」と云ふがよろしい、西洋人抔の風は「私の考では至極よろしい物と思つて買つて參りました何うです」と云つて贈物をするのです、詞遣ひも其位の事に致し、可成虛禮の贈答は御互に廢止するとに致したい、さうすると互の往來即ち運動も容易くなり心易くもあるから、貴婦人方も何卒其邊に御注意あらんとを望みます。

衣物の事に就ては、第四の美と云ふ所に左の箇條がありますから、夫を私は讀み上げます。

又女子の身躰は自然の美術なれば、其外貌に注意することは、美育に於きて、樞要なることとなれば、常に容儀を正し、五躰の位置を整へ、頭裝は東髮に結び、服裝は和服洋服其の好むところに從がふも、務めて閑雅と、質素と、健康を旨とし、決して驕奢華美の風なく、而して又單獨異の風もなく、通常心を以て一般中等社會の有樣を通觀して以て自ら斟酌すべし、蓋し衣服をして、眞に美ならしめんが爲には、必しも高價なる材料を用いるとを要せず。又時々の流行に從はんことを要せず、唯己れの分に應じたる材料の排合安置をして宜しきを得せしめば、則ち足れり。

詰り華麗なるのを尙ぶのでハ無く、組合はせの宜しいのが美と云ふ事です、然るに此の服は何處の夜會に着て往ッたから最う着られ無い抔と云ふやうな事では困まる、互に質素を仕合うてさい居れば、人の處を見舞うにも又運動を爲るにも、容易く出來る譯だから、是は何ぞ婦人衞生會の御方抔は御相談成されては如何の者かと思います、只贈答をするとか御馳走をするとかしても、何うも先方で御馳走されたか

ら今度は私の方で御馳走を仕なければならん、斯ても置けない構へんでも置けないから、今度は招ばれても往かない方が宜いと云ふ様な事になります、其上又衣服の心配が加つては迚ても親密な交際は出來ませんから、よく御相談なされて互に替らぬ様規則を立て頂き度い、男子とて同様ではありますが、先づ御婦人の方から改良して戴かないと困る、昔しから雌鳥勸めて雄鳥時を告ぐると云ふ事もありますから、是非とも貴婦人からして御骨折をして頂きたい、尙ほ此外にも二三御注意申したい事もあるが、餘り長くありますから是で今日は御咄を止めます、是れに就いて何か御相談でもありますならば、私も及ばずながら盡力仕ります、何卒御實行を願ひ度いと思ひます。

（完）

○産婦及蓐婦の養生

（廿一年十二月常會演説）

櫻井郁次郎 述　佃與二郎 筆記

私は此の前會に於て、妊婦の養生と云ふ事を御話し致しましたが、今日は産婦と蓐婦との養生に就て御話し致します。

前にも申しました通り、養生と云ふ事は何か食物と云ふ様な極めて狹き意味を含んで居るもので御座いません、畢竟養生とは身體安全を保護し無事に生活する、其の方法を指したものでありまして、決して食物や飲み物と云が如き狹き事ではありません、此に産婦と蓐婦の養生と云へば、其の人の健全を保護するの手段と云ふ事であります。

産婦と云ふ事は前會に御話した通り、産を致す丈の婦人と云ふ事で、申さば産を爲しつゝある婦人と云ふ事です、蓐婦とは産を致したる後ち數週間の間蓐に在る間の婦人で、元來産婦の養生蓐婦の養生と云事柄に就ては、尤もお若き御方にありては感應が有

りますまいから、極めて面白く無い事とは思ひますが、是は早晩御用に立つ事も有りませうと存じますから、暫く御退屈を忍び御聞受けを願ひます。

世間の申し傳へでは、産は天成であるから幸不幸と云へる事があります、故に不幸なる場合があれば是れも天成、彼れも天成と申します、固より産は天成(ナチユール)である、併し其の天成と見做して何事も捨置いて宜しいと云ふものではありません、畢竟産に幸不幸を來たすは其の場合に當ッての注意不注意に關係する事多き樣に思ひます、シテ見れば産に就ての行狀杯は中々忽かせにすべきものではない、併し産と云ふ事は大切のもので必ず昔しより其の本分を盡す人が有ります、野蠻の國は姑らく置きて開明の國にては必ず産婦を扱ふ人が有る、御承知の通り是れは産婆と申します、併し産婆は能く事に慣れ學理にも通じ年取ッた人でなければならぬので、英語でミツトワイフ、獨乙語でヘーブアンメと云ふて婆の字が附いて居る、近頃産婆と云ふ婆の字は不都合であると云ふ事が新聞杯にも見へるが、元來老ひたる扱ひ人と云ふ事で、今日の如くに若き産婆が昔しには勿論なかつた事で御坐ります。

併し産婦自らも又側に居る人も其の事を委しく詳かに承知致し居る事は必要であらふと思ふ、若し産をする人、並に其の廻りに居る人が、産の事柄をば十分に理解して居りましたなれば事に當ッて狼狽する事も周章る事も有りますまい、全體産の時と云ふものは身體の有樣精神の有樣が少しく違つて參るので有るから、産婦が平日其の事柄を理解して居らないと却て其の時に不幸を招く樣な事が有ります、之れを理解して居らないと、血が出たとか、下り物がしたとか、痛が劇しいとか、僅かの事に就て母兒の不幸をいたすことが有るから、平日に當て産婦も側の人

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

も、之を審かにするが又必要であります、ソレ故私は養生と云ふ事に就て、前以て普通の產の形狀を說き、然る後ち追々養生の事に說き及ぼしませう。

產と申しまする事は分身分娩杯と色々の唱へがあります、妊娠の始り即ち月經の閉止してより、二百八十日目（と大抵定めて有る）に痛みを以て起ります、是れは私の申す迄もなく產を爲された方は何れも御承知の筈であるが、痛みが起る是れをば陣痛と申します、其の痛みの性質は外の痛みと少し違ッて居る、其の痛みは次第に强くなり、且つ時を限りて痛む、故に之を「シキリ」と申します、痛みが起ッたかと思へば忽ちに去り又起ると云ふ樣な工合で、產が終りましても猶痛みは續くもので、彼の子宮が縮みまする時に痛むので、後と腹とか申すが是れも產前と同樣です、醫者の方では之を間歇性の痛みと申し、極はめて規則正しき痛みです。

通常初產は手間取れる、再三になれば時間が少なく手間どれなくなります、初產が十二時間懸れば二度目は八時間位で、大抵三分の一斗り減じます、しかし產致す間に時の區別と云ふものがある、是れは御承知になつて置くが宜しう御坐りませう、則ち三ッに分ちまして第一が開口期、第二娩出期、第三後產期、如何に手輕き產でも亦手重き產でも必ず此の三ッの時期が有る、然して產婆に於ては開口期を第一期と申します、第一期は陣痛の初より破水と云ふて下り物がする迄でに一期は終ます、娩出期は第二期で破水より後ち兒の全躰が生るゝ迄、次に後產期は所謂第三期で後と產の下りる時、是れ丈けの順序は必ず御坐ります、箇樣に時を區別して各々養生があり注意の仕方もある、然して其の順序を知らず注意の前後を間違ひれば大なる害が起る、喩へば第一期に於て事に慣れざる產婆杯は分娩に近づきぬとあやまり、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

頻りに怒息を附けます、併し其の時期が來たらねば決して分娩する氣遣ひもありませんし空しく身體を疲らします、其の時平日の御心得が有りませんと、産婆の云ふ所を聞て間違ひとは思ひません虚とは思ひません頻りにイキム、身體が疲れる、遂に不幸を見ると云ふ事があるから産爲す當人も、亦周圍に居る人も之を承知して置きませんと飛んだ禍に罹ります、是れにて三ツの時期があると云ふ事は御合點でムりましやう。

先づ産に就て最も注意の太切なる事は清潔と云ふ事です、是れは養生中の最も眼目ともなるべき事で、我が國では兎角産は不潔のものとして取扱ひが宜しくない、常には絹の褥に寐て居る人が汚れた布團で産すると云ふの風俗になつて居るが、産致す時に粗末の取扱をしたる爲めに尤も危き病を起します、其の病は昔しより左程注意もせず人が心付きませんでしたが、近來病理學が進んで彼の産後の熱病、産蓐熱と云ふ如きものは全く不潔より來りしと云ふ事を知り得ました、コハ屢々世間に見る所の病で、大熱となつて腹膜炎に類した病だが、元は不潔より起りたる傳染病の一種です、傳染病の種類の中ちに加へてあるが、其の原因に就て調ぶれば全く外來の傳染と云ふ事です、實に恐る可きではありませんか、外とから來るものあれば、其の不潔を除くより外に防ぎ方はありません、實際我國では昔しより産の時たはボロを澤山に用ひます、家が新らしくしてボロが不足あれば親類から態々ボロを遣ひ物にするのだが、是れも風俗習慣より一般にボロでなければならぬ様に思ふのだが、元來ボロと云ふものは不潔物を含むものであるから、なるべく除ぞかなければならぬ、併し只今申したる蓐熱と云ふ熱病は、啻にボロからのみ起るのではない、其の他の不注意よりして來る

事も有るので、産婆の不注意から手をも洗はずして其の儘陰部に手を入れる抔と云ふ所から病を釀し、其の外不潔の海綿抔を以て陰部を拭ひたり洗ッたりして病を起します、斯の如く外來の毒よりして病を起すのであるから、勿論古き海綿抔は用ひぬが宜しい、産には洗濯した布を用意して古き物でも已を得んならば能く洗うが宜しい、又普通の綿を用意するが宜しい、綿にも色々種類が有ッて古綿を打直した物抔もあるから是等は注意しなければならん、年寄なぞは此理をしらす、ドウセ捨るのだから宜しいと云ふて悪るひ綿や布を用ゐるのであるが、害を防ぐ所より云へば成るべく奇麗に宜敷綿を遣うが宜しい。

産婦の在る家に就ての注意は、只今申す通り、總ての不潔を避け、産室には手を洗ふ湯も澤山に備へなければならん、手を洗ふては又扱ひ、扱ひては手を洗ふ樣に産婆の手を清潔にするに注意しなければならん、一般の人情からして、些末の事迄に人を遣うのも氣の毒だからと云ふ點から、先づ其の儘に扱ふと云ふ樣な事が有るから、其所は周圍の人が氣を附て石鹼を備へ湯を澤山にして、手拭を遣うにも一度用ひた手拭は二度用ひぬ樣に仕なければならん、又海綿抔も二ッも三ッも備へなければならず、産婦の陰部や兒の汚れを拭くには、皆清潔と云ふが第一の手段です。

其の外産を致す前に、醫者とか産婆とかに就て産の時要用の物を備へる、大抵の物は葛籠の中抔に入れて土器小刀抔は備へてあるが、まだ足りない其の外に溲器、灌腸器、イルリガートル、石炭酸水抔が必要です、元來灌腸器抔は如何なる家にでも入る物であるが、兒を灌腸して遣る位の事は是非しなければなりません、産を爲る前には必ず一個々々備へなければならず、且つ産蓐に就く前の注意と云ふもの

がある、是れは矢張清潔の一に屬するが髪を解き櫛づる事で時に依ては半身浴を爲して十分に下の方を清めます、産後數日の間は髪を解す事も出きませんし、痛みの稍始つて産の下地位と思つた時は是れも致した方が宜しい、詰り清潔の一つです、其の外躰力を養ふ事に就て産前に注意しなければならぬのは、彼の飲食物です、譬へば滋養物が欲しいとか、淡泊の物を望むとかすれば、隨意に之を與へるが宜い、産を爲すつた方は何れも御承知の通りだが、産と申すものは甚た力の入るもので、痛みの強くないうちに、如何なる大敵でも引受ると申す位に躰力を拵へて置けば、大に都合の宜きものです。（未完）

○小兒保育法（前號の續）

加藤照麿　述　佃與二郎　筆記

前段に述べましたる如く、母の躰格病氣、若しくは貧賤、或は交際を繁く爲す者ハ、母自ら其乳を與ふる事ハ出きぬのだが、扨て之に代ゆるには如何なる者の乳が宜しいであらうかと學者達が研究したが、先づ肉食獸の乳は往けません、食物も違ひますし、又之を得るにも少しの金でハ飲ませられぬ、獸の中では先づ第一に驢馬の乳が宜しい、次に山羊です、併し此等ハ牛乳程多量に出ませんから、自然餘程の贅澤者でなければ飲ませる事は出きぬ樣になりました、一頃巴里に或る贅澤家があつて、貧乏人の兒を集めて山羊で育てゝ見たが、乳母を以てするよりも費用が嵩むから續かずに止めました、然るに牛ハ世界中至る所に無き地ハありませんし、分量も多く出ますから、遂に一般に廣りたるのでありませう、然して牛の乳は人乳に比して、脂も多く蛋白質も多い、只糖分が少しすくないのです。

御話しばかりでハ解かりませんから爰に一寸實物を

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

御覧に入れませう。

一方には牛乳、一方には人乳、之に鹽酸を加へて、牛乳は固まり人乳は固まらざるを示す。

詰りを云へば、固まるのは惡るい、固まらぬのが宜しいので、味噌越しに粕がたまる樣な工合で、胃の中でもよく越しきれませんから、生れたての小供には牛乳は飲ませられません、(且つ牛の御話は致したが何地の牛が宜しかるべきと云ふ問題に至りましては人間の醫者では解りませんから演べません。)先刻も申上ました通り、母乳の飲せられん場合には、牛乳で育てるのが一番で御座います、併し牛乳は生れたての子供には其まゝでは滋養分が多過ぎます、してよろしく御座いませんから、水を入て薄くしあければありません、そこで水で薄める割合を一寸申しましやう。

(其割合左表の如し)

子供生れてから

初め二月は	一合の牛乳に	水三合
次の二月は	一合の牛乳に	水二合
次の二月は	一合の牛乳に	水一合
次の二月は	一合の牛乳に	水五勺

九ケ月目位ゐ牛乳を其まゝ飲してもよろしい者です、併し水を入てから必ず一度煮なければなりません。

どの子兒にも此の割合でよろしいとも申されませんが、先づわたりまいの割合を申上ましたのです。

一匹の牛の乳のみと限るが宜いか、多くの牛の乳を集めたる者を飲ますが宜しい歟、是れは私の先生などの説では多くの牛乳を集めた方が宜しいと云ふのです、其譯は牛にも大層重い肺病を病む事がある、それ故若し一匹と定めて、其牛が病にかゝつたを知らずに居れば、子供に病を傳ゆるとがある、併し澤山の牛乳を集めれば、其中の一匹が毒があつても、

混和の爲めに其勢力を薄くすると云ふのです、元より極無病と云ことが判然した牛があれば其の牛ばかり用ゆるがよろしいのです。

牛乳の腐敗し易き事は既に長與先生よりも御話しがあつた樣ですが、元來水と云ふ者の中には澤山の虫があるので、虫さへ無くば百年二百年の後と雖も腐ると云ふ如きことはないものです、牛乳も其通りであるから、是非之を防ぐ方法が無ければならん、ソレに一番手輕き法は牛乳を煮るのです、左すれば中に今迄居た虫も死んで仕舞うから最う腐らせる力が無くなります、故に一度煮た牛乳は先づ當座大丈夫の者であるです。

牛の乳は長く置けば、上に薄き皮樣の者が出きる、是れは脂が浮くのですが、小さな兒に飮ませるには、此の浮きたる部分だけ棄てゝ仕舞うが宜しい、成るべく胃の力の弱き者には脂の少ない方がよろしいのです。

東京の樣な所に居れば、牛乳も大層安く買はれ又朝な〳〵配達もして呉れますが、田舍の牛乳の無き地方にては、東京から買て持ッて參り、之を貯へて置くと云ふ事をしなければならん、是れには是非腐りを止めるの方法が無ければならん、ソレには第一に煮るのであるが、獨逸のゾックスレーと云ふ人は一ツの器械を發明した、其器械は至極重寶ではあるが價が高いから餘りに廣まりません、以前はモット簡略であつたが次第に工夫して終に此の樣な者となりました。

(器械並に乳の煮方を説明す)

昔し亞米利加より輸入したる、ゴムのトグロを卷た樣な、小供が寢て居ても乳が飮める器械が來ましたが、今日では此の器械は餘り用いません、なぜなればゴム管中の乳が腐れて、小供が胃病を起すことがある

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

と云ふので用ゐるものハありません、畢竟下女などが洗ふに面倒でない、飾りハなくとも單一にして淸潔なる方がよろしいのです、且つゴムの呑口も少し長きに過ぎると、上顎を衝くから直に吐き氣を催します、大人とハ違ひ小供ハ容易く吐きます、此の譯ハ前に申しました、又匙を以て乳を飮ませるのハ往けません、今日でハ西洋人ハ之を致しません。

第二に長く乳を保たするにハ藥を以てするので、即ち「スイヨウサン」と云ふ者を混加します、併し是れハからだにハ宜しくありません、只乳をあがく持たせると云ふだけです。

第三に亞米利加の先生ハ砂糖で煮るので、所謂コンデンスミルク、是れハ日本でハ大分に流行りますが、一升の牛乳に四合四勺バかりの砂糖が這入るのです、故に之を夏、飮ませると腹下痢を起します、人によりてハ私の子ハコンデンスミルクで育てたら大層に丈夫に肥ッたあと申すが、私ハ餘り御勧め申しません。

次に尙ほ強き火で早く煮るのです、薄き乳ハ蒸發させて濃き部分だけを殘すので、是れハ一番宜しい樣にハ思ひますが、遺憾ながら會社でなくてハ自家で製する譯に參りません。

唯今まで申上た事を一口に申せバ、生れてより七八ケ月頃迄ハ母の乳を以てし、其後ハ母の乳でハ不足ですから、牛乳其他消化しやすき者を以て養ひたひと云ふのです、餘り長くなりますから先づ大略としまして、爰に一ッ折角持參致したのですから、此儘持ち歸るも遺憾ですから、一應皆樣の御高覽に供へませう。

（西洋小兒の衣服を調へたる人形）

櫻井郁次郎氏ハ前回に産婦産ボロの事を辨ぜられましたが、シメシに於ても其通り、俗に小供が大事か

しめしが大事かと申すが、如何にも日本の風俗は其の通りです、成るべく物の良否は措て、新らしく安くして度々買はれる者、洗濯の度々出きるもの、汚れめの見ゆる樣白き者を用ゐると云ふ樣に致したいのです、デ御覽の通り西洋小兒のオシメのあて方は上から下まで白いものばかりです、且つ日本の小供は躰を屈めしめて懷くのだが、西洋では其の曲らぬためにとて寢臺でと抱きて居る、然してオシメの下にはゴムを敷きたる布を一枚用ゐますから、ソレだけを取かゆれば決して下まで濕すと云ふ樣なとはありません。

次に御話し致したきは蒲團です、蒲團の丸洗ひは出きるか出きぬか私しは存じませんか、兎角オックウなものださうです、依て西洋のは蒲團に眞があつて、此の樣な袋をかぶせます、眞は私は持て來ませんでしたが此の上袋だけを屢々洗濯するのです。

最一つ大事な事が御座います、之れは小兒を初から一人で寢かすクセを付ケねばなりません、母親が火酒飲で酔て子供をだきねシナガラ、知らずに乘かつて殺した事が御座います、英國抔で時々有ると云ふ事を聞きました。

今日は思たよりは長く御話を致しまして御聞被下實に難有御座います、又時が御座いましたら子供の衣服、室等の事を御話致しますから御聽に何卒御出被下ませ。(完)

○衞生法は實行に在り（前號の續）

佐々木政吉 述　　佃 與二郎 筆記

是れより食物のとを一寸申しませうが、食物は幾分か日本の婦人には缺けて居る所があります、一躰食物と云ふものは、からだが働いて費えたものを補ふ爲に取るものでありますから、何う云ふ物が補ひに

なる歟、滋養になる歟と云ふに、蛋白質(卵白身の類)脂肪(あぶらの類)含水炭素(澱粉即ち葛の類或は砂糖の類)其他鹽類水、此れ等のものが一番必要のものであります、所で、大人の食物中には先づ何の位の滋養料を含まなければならぬかと云ふに、蛋白質百二十瓦、脂肪が百瓦、澱粉の類が三百四十五瓦許りなければ、大人の二十四時間の滋養が出きぬと云ふ割合ひであります、然るに日本の御婦人などは、蛋白質の召上り方が甚はだ少なくつて、澱粉質類の方を割合ひ澤山に召し上がるとが、大概普通の習はしの樣に成りて居りますが、此れは最も改めねばならぬとで、必ず成るべく蛋白質の方を多く食べ、即ち肉や卵の類を餘分に召上がるがよろしくございます、私共も醫者を致して居つて折々困ることが有ると云ふは、血が少なくなつて既に貧血家であるから、牛肉か鷄卵を御上がりなさいと云ふと、一切ナマグサ物は食べないと答へ、牛乳はと問ひますと、くさくつてイヤダと云ふ人が有り、是れには實に困ります、呉れ〳〵も婦人方には澱粉質類ばかりを食べて蛋白質の取り樣が少ないから、成るべく前の割合ひに上るやうに致したくあります、併し食物には是れ迄色々の說があつて、日本人には是れ迄食べて居たもので十分であると云ひ、即ち人足だの車挽きなどを見れば、左樣に旨き物も食べないが、相應に筋肉も發育して身體も壯健であるから、日本の食物で十分なるに相違ないと說を立る人もあります、成る程左樣で御座います、見た所では左程に滋養分をも食べないが、學者輩よりは壯健であります、併しながら勞働を爲す人、力作をする人には、此れ等の食物でも消化する事が出きますが、婦人方や、學者、文人杯は、人足などの樣に勞働する事も力を使うとも出きませぬから、此れによりても食物の加減はしなけれ

ばなりませぬ、委しく言へば、からだを使はぬ者は、使はぬ樣の方法に據りて滋養を取らなければならないのであります、然して前の通りの割合はありますが、その割合ばかりで味ひがわるくては困りますから、味ひもよく又割合も近き樣にしなければなりませぬ。

又一寸短く演べますが、既に長與先生が御話しになつた如く、朝起きたならば室內の空氣は不潔になつて居りますから、二三時間は窓を開けて空氣を入れ換へねばなりませぬ、是れは一寸した事でありますが肝要の事であります、殊に寢部屋などは必ず空氣を入れ換へねばなりませぬ。

其外は皮膚の養生法にて、皮膚は寒さを受ければ風を引きます、昔から風引きは百病の基などゝ云ひますが、如何にも其樣な事があります、素人ばかりではなく醫者の方でも、喘息や肺病を引き起すと申しますから、俗間に言ふことも強ち妄りの說ではありませぬ、是れを防ぐに先頃冷水養生法と云ふ題で私がこの講義室に於て演說したことがありました、餘り丈夫の人でないならば、冷水を手拭に浸し、此れを絞りて胸と背中を拭くだけでも宜しくあります、さう致せば大に感冒を防ぐとが出き、それのみならず皮膚も淸潔になり其他神經を強め、榮養を善くする事も出きます、此等は總て簡易なる衞生法で誰にても實行する事が出きます。

右の外倘ほ演べたき事がありますが、天氣も悪るし餘り永くなりますとお風を引かせてもなりませぬから、先づ此の位にしますが、衞生法を實行なさるとを望みます。

（完）

○小兒保育の心得（前號の續き）

木寺安敬　述

佃　與二郎　筆記

日本の小兒と、外國の小兒と百分比例として、其の死ぬ數を算へまするど、外國の小兒の方が餘計に死んで居る、日本の小兒は死ぬのが少い、其の譯は外國の婦人はコルセットを用ゐて腹を締るから、小兒の發達を妨げる、外國婦人の難産が多いと云ふも右の元因で御座いませう、又或人の說に、日本人の宜しき事は、大脉三歲四歲位迄は母親が抱き寐する、當時母親の脉温と小兒の脉温とは相適する者で有る、然るに外國の如く別に寐かして、火で温める樣にすれば温度に於て必ず相違が出る、日本のは腹で温むるから、每晚温度の相違と云ふ者は無い、日本の小兒の丈夫と云ふは、或は是等に元因するのでは有るまいかと存じます、是は二歲か三歲位迄の事で有るが、若し四歲五歲とあれば、貴賤上下押し併べて、日本小兒に害が起ります、其の元因は何んで有るかと云ふに、燒芋とか、不熟の菓物とか、始終間た食ひを致して居ります、朝から晩迄程度無しに食ッて居る、今日は蜜柑幾つ駄菓子を幾ら食べたと云ふ樣に、間た食ひの爲めに定食の飯を少くしまするので、一時に害が出るので有ふと思ふ、食物は總て時間を定むるか、間た食ひ杯は成る可くさせない樣に注意しなければならん、是等はアナタ方に申し上るのでは無くして、お召遣やお出入の者が有りましたなれば、御說得をあされて衛生に注意する樣御勸めを願ひます。

中等以上の小兒に就て害の有る事は、親達が世間の人に伶俐と思はれ樣、伶俐にしたいと云ふ考へからして、無暗に敎へ込む、單語でも、連語でも、無暗に敎へて小兒に骨を折らせます、書物を敎る事は勿論惡るき事では有りません、宜しい事では有るが、敎へ過ぎると云ふ點に至ては餘程害が有ふと思ふ、四ッか五ッの者に非常に精神を遣はする事は、偖中

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

等社會以上に見ますが、餘程害が有ふと存じます、不思議な小兒で有る、奇童で有ると譽められて悦こぶ親は有るが、餘り譽た事では有りません、奇童が大家を成す事は少い、思ひの外成人してから能くならないと云ふは、昔しから言い傳へて居る事で有る、衛生上より云へば非常に學問の有る人の躰は餘り譽められません、何んでも少兒は隨意に遊ばするが宜しい、又御祝ひとか申して、嬢様でも若殿様でも、或は豪家の娘でも、二枚も三枚も厚着をさせて立派に飾り立た有様は綺麗では有る美くしくは有る、有るが小兒から見た日には苦しい困った事と思ふに違ひ無い、着せられた衣物の目方は自分の體量よりも重く、終日抱れて居ッたならば、定て窮屈にも困難なる事で有ふと思ひます、或人の話しに、ドウゾ衣服の數は貧乏人の如く、綺麗な事は上等社會の眞似を仕度いと云ふたが、成る程中等以上の人は兎角着せ過る、貧乏人は汚くて困る、美しき衣物を貧乏人の數程衣せるが、宜しからふと思ふ、一躰小兒は身躰の發達する勢力盛にして、從て躰温は大人よりも高き物なれば、其心にて衣服を着せなければなりません。

右の如く日本小兒に就ては、害も有る利も有る、何卒之を斟酌して養育したなら完全に小兒を育る事が出き様と思ふ、附て加へて御話しするのだが、四歳五歳の頑惡息子、我儘娘杯は、如何にしたなら宜しいかと云ふ考へを起した、竊に思ひます、衛生の事と教育の事は車の兩輪の如く、決して離る可き者では無いと、就て私が西村茂樹先生と共に八王子に參つて話しを致した事が有る、之を一寸述べませう、何れの教育會でも小學校は人間を作るの元で有る、土臺で有る、根本で有ると云ふは、世間の輿論で有ります、併し私は俄に之に雷同する事は出きません、

小學校は未だ人間を作るの根本では無い、何んとなれば今日では其前に幼稚園と云ふ者が有る、幼稚園が根本で有ると私は申した、其の根本と云へる道理は、先づヲギャーと生れる、二ッ三ッ迄は母の乳房を舐り膝の上に居る、當時ウマンウマ高イ〳〵總て母親が教師で有る、四ッ位に成れば次の子が生れる生れると專ら次の子の養ひを致さなければならぬ故に、小兒が最早四ッに成れば先生が無くありたと同様、六ッに成ッて小學校に入る、されば四歲より六歲迄は學校を休み居る者で有ります、其休の間に何をして居るかと云ふに、下等社會に於ては買食ひとか、危き遊び斗り覺へる、ソレのみならず小兒は急激の變を忌むと云ふ事が有る、今迄學校を休んで居た者が六歲にあれば俄に腰を掛け、いろはを習ふ、讀本を習ふ、ソシテ五時間なり六時間あり勉强すると云ふは、非常に困難を覺へ非常に害を起します、背にのみ居た者が俄に理屈を覺へ、踏臺に腰を掛ると云ふは實に困難で有る、ソレ故に私は西門跡寺内に幼稚園を建るの計畫を致しました、併幼稚園の先生が足りませんから、更に芝増寺内に娒姆講習所なる者を設け先月十五日には十三人に過ぎ無ッたが、今日では最早三十名の餘になりました、扨其の幼稚園は何故に必用で有るかと云ふ譯は、四歲より六歲迄の間先生に就て居らないから兎角に危き遊びを覺へ、又間だ食ひのみを致して居るから、大に衛生上の害を防ぐ事が出ます、或る幼稚園の話に、德川樣とか何樣の若樣とかが御出になりましたが、是よりして御家に在るより辨當を澤山に召上りますと申す事です、私は思ひますに、此一例によりても衛生上よりして幼稚園は實に必用で有る、又幾分の智慧を進めて小學校に出る迄の階梯にあると、大略右の如き事を八王子に於て演說致した所が、郡

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

長始めの賛成を得て彼の地にも一の幼稚園を設け様と云はれて居りました。

右は聊か教育と衛生との關係を申すので有りますが、長く御清聽下されたを謝します。

〇看病の話　　木寺安敦　述

左は昨年十一月例會の席上演話にて自ら筆記の上寄送ありしものなり

私は南部副會長の御依賴により出頭致しましたる處、私より前席に御演說被下る御約束の御方御遲刻遊ばされたるにより、私に何か談話を可致と仰聞られましたが、私も何の材料もなく御斷を致しましたるも、御聞入れなきに付無據つまらぬ一と口の御咄しを致した、其談話の趣意と申は、婦人方看病の仕方を平生に考究し置ねばならぬと存じます、なぜとなれは看病看護の事は全國三千六百万人の内婦人を半數と積るも千八百万位の女子はわります、(男子と雖)上高貴の御方より下も裏店に在る極下等の女に至る迄、兩親あり夫あり兄弟あり子孫ありとすれは、一家族の内に於ても看病看護の事を執らざる婦人は一人もないと考へます。

此肉親離る可からざる人の内に於て病氣に罹りし時の御心配は如何と思召す、唯だ父母夫人其の他大切なる親族の快方を料るより外の考は出てませぬ、此やるかたなき困難心配も時に際して醫者或は老人の差圖を受け看病看護しましようが、己れ平生に於て素習なき時は、如何程深切にするも知らず〱病人の意思に悖り看病の方に背て病人に害を與んとも申兼ます、依て私考へまするには、先つ小學校の高等科に女子には殊更看病法の一科を設けおくを必用と存じます、なぜとなれは小學科中には(簿記法の如き)百人が百人普通に學ばずともよき學科も御座りますれは、上下一般知らねば濟まぬ看病法は教へて

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

置きとう存ます、依て其仕方を私が實驗しましたる事にて御話しを簡略に至しますれバ、

第一に御粥を煮る話し

日本人の病にかゝりたる時の食物は何と云ふに、重もに御粥を啜るを普通の食物と存じます、此お粥を煮には(米よりするを宜しとするも)先飯を鍋に入れ湯を加へて適宜に煮るは通常なれども第一鍋に注意致さなければなりませぬ、唐金鍋銅鍋の如きは如何程清潔にするも、緑青の臭ひ移りて病人の心經尖どき者には殊に惡臭を感じまして、折角の食物も十分にたべられません、是は手安き事にて四五錢だしますれば土鍋が買へますから、夫れで煮れば匂ひもなく病人のからだに毒も與へませぬ、又煮加減も十分注意しなければなりませぬ、火を盛んにして急に煮るも宜しからず、餘り火の氣弱くして煮るも宜しからず、又水の少なくして飯の剛も宜しからず、水の多くしてべたゝゝになるも宜しからず、又病人の求めたる時には可成速に進むる樣に覺悟致したき物、尤病人平生の嗜好に因るとは雖も、先づ十分に煮へて程能く剛柔の適宜になるを心掛け習熟し置たきものなり、なぜとなれば病人に取りては一椀二椀に食物は其の者の命脈を繫ぐ骨子なれば容易の仕事には非ずと存ずるなり、此事たる極手安き仕事ゆへ、平生氣にも留めず、又其際に當りても餘り困らぬ事故、平生孰人も注意せざるも、其看病する人に取りてハ、其父母其良人其他大切なる人の生死に關する大事業なれバ、中々おろそかに成り兼る義と存じます。(猶衣食衾褥等の御話は次に申つゝけり)

○手療法一則　　荻野　吟子　述

(二月例會席上談話)

食物の事に就て、少し感じた事が有りますから貴婦

人方に御斷し致しますが、今宮本さんから、段々の御斷しが有ッて、兒護婦の不注意より、子供が種々の者を飲み込み、夫れが爲めに大變危險が有るとの事ですが、私が田舍に居りまする時分、之れに就て實見した事が有りますから、夫れをば申し上げ樣と存じます、夫れは二歳斗りの子供が、文久錢とも云ふべき錢を呑んだのです、恰度私も其節其場に居りましたが、何も心得ませんから唯惋てる計り、何か振舞のあッた時ですから、大勢人も居りましたが、何れも靑くなり、手を束ねて見て居る迄の事で、醫者を呼びますにも、間に合はぬと云ふので、大層に遑てましたc 其時村の內に一人の老人がありまして、其場に驅け付けて參り、錢を呑んだと云ふ話を聞たが、就ては、私が實驗があるから、其れをば何卒行ッて見て呉れ、其法と申すは、子供の兩足を捕へて倒さにつるし、顏を外に向けて、膝もて背を撞くと云ふのですさうすれば、曾ての實驗に依て出るから、之を遣ッて見て呉れと熱心に勸めました、折節孰れも途方に暮れて居りましたから、取敢へず之を遣ッて見樣と云ふので、父親が子供の兩足を捕へて中に釣し、外面を向かして膝で脊髓を撞きました、トコロが、容易く其錢を口から吐出しました。其時集ッて居ッた、一同の者の喜びは何の位で有りましたか、商家杯では多く錢を取扱かつて居るから、醫者を呼ぶも間に合はぬと云ふ樣な時は、實驗上隨分用ひて宜敷き法の樣に存じます。今濱田宮本兩先生の御話に就て、私が已往に於て感じましたる事を一寸貴方所に申し上げましたのです。

本會錄事（自廿二年三月 至仝 五月）

○三月總集會　三月二日午後一時より大學講義室に於て本年第一總集會を開き先づ濱尾幹事昨年九月以降半年間の庶務の報告次に荻野幹事仝會計の報告あ

り後長與專齋氏（婦人衛生の極意は運動と清潔とに歸す）坪井次郎氏（塵埃の說）の講演あり續いて木寺安敎宮本仲兩氏一場の談話をせられ終はりて茶菓の饗あり全く散會せしハ午後四時半頃にして會者七十餘名中々盛會なりし、

○會塲移轉　従來本會々塲として大學講義室を借用し來りしも三月にて其期限も滿ち他に種々の都合あるが爲に役員相談會に於て四月より華族女學校を借用するに決し其許可を得たり

○四月例會　四月六日午後一時より華族女學校に於て本月例會を開き來會者七十餘人なり二時より講演あり先づ高山紀齋氏（衛生上齒の養生法の誤を辨す）と云ふを講ぜられ次に大澤謙二氏（衛生雜談）と云ふ題にて衛生上多くの注意を與へられたり四時半散會す

○春期懇親會　四月十四日午前十時より小石川植物園に於て春期懇親會を開く時正に櫻花の好時節且つ天晴れ風朗か午後に至り少しく陰天となりしも幸に終日雨なかりしを以て會者無慮百二十餘人音樂あり席上演說あり花木の中纎草の上逍遥し飛觴し各適意の興を取れり獨り遺憾ありしハ創立以來の講師及其他の諸先生方を招待せしも來會者十餘名にて意外に少なかりしことなり　中にハ早く歸へられし方もありしが全く散會せしハ午後五時なりし。

○五月例會　五月四日午後一時より華族女學校に於て同例會を開く會者九十餘人頗る盛會あり

口腔一斑　荒川　脩君
窓の噺し　色川國士君
小兒の營養　緒方正規君

右三氏の講演終り四時頃散會す

○三月以降本會に向け金品の御寄送を辱ふせし方々に對し玆に紙上に於て聊か謝意を表す

煎餅百袋（三月總會の節）　石崎政子君
金貳圓　原田時子君
金五拾錢　片山繼子君

自廿二年二月二十日
至廿二年五月二十日　入會者姓名住所

中村春子　牛込區神樂町二丁目廿一番地
波多野純子　赤坂區田町三丁目十二番地
松野貞子　仝　靈南坂三十四番地
嘉村大子　相州小田原新玉町
田中顯子　北海道札幌北一條西六丁目一番地
千塲貞子　熊本縣天草郡町山口村
遠山節子　仝　前
渡邊みつ子　京橋區南金六町十二番地
榊原稜子　神田區錦町三丁目七番地
生駒種子　本郷區弓町一丁目廿八番地
小野里萬之助　四谷區坂町四十六番地
諸岡秀子　神田區淡路町二丁目一番地　熊野次郎方

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

高瀬みき子	仝　駿河臺北甲賀町十二番地
小林久子	日本橋區呉服町十八番地
濱田玄達	帝國大學
仝　すて子	
加藤照麿	麹町區上貳番町四十四番地
志賀泰山	仝　富士見町六丁目十番地
宮本らく子	神田區佐柄木町十一番地
福羽貞子	麹町區下六番町廿三番地
杉　いそ子	芝區三田小山町一番地
深坂愛子	麹町區一番町廿七番地
荒川脩	神田區錦町一丁目八番地
色川國士	麹町區土手三番町
諸方正規	本郷區駒込東片町百六十番地
佐藤梅子	岡山縣岡山三番町廿八番地邸丸山内
尾澤房子	小石川區第六天町廿四番地
伊藤君子	本郷區福山町六番地
松田のぶ子	神田區淡路町二丁目四番地　小川學校

計二十九人

自廿二年二月廿日
至仝五月廿日　退會者姓名

三田村敏行　井口金子　東條千歳子
藤島信子　中田喜代子　磯田正廣
長谷川なか子　横山みつ子　内城ひさ子
貝坂とり子　伊勢豐子　根本しか子
石黒節子　三橋梅子　鈴木虎子
長崎稻子　加藤安子　鈴木なか子
三好梅子　森谷政子　林よし子

計二十一人

明治廿二年五月廿日現在會員數

總計會員數參百四十四人

内譯

終身會員	七人
府下贊成會員	二十一人
府外贊成會員	十六人
府下會員	百八十八人
府外會員	六十貳人
千葉支會員	九十八人

○本年一月以降本會へ寄送せらし雜誌左の如し

埼玉衛生會雜誌自四十八號至五十二號	埼玉衛生會
愛媛衛生會雜誌自十號至十四號	愛媛衛生會
三重衛生會雜誌自十七號至二十一號	三重衛生會
產科婦人科研究會月報自一號至四號	產科婦人科研究會
茨城衛生會雜誌六號	茨城衛生會
護國之楯自九號至十一號	北海禁酒會

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

●會員諸君に望む

本會設立以來次第に盛運に赴き今日にては無慮三百名の會員と一支會の設立を見るに至りしも唯毎月一回の講談會と一年四冊の雑誌にては到底實際の効益を社會に普及するに足らず勿論雑誌を增刊して隔月或は毎月の發行とし且つ衣食住育兒看病等に就て實際の事業を興し廣く公衆の幸福平和を增進せんとこそ本會の素志なりとは云へ會運猶微弱にして其機に至らず常に甚だ遺憾とする處なり、會員諸君は固より衛生の必要を知り給はん從つて婦人衛生會の事業の効益あることを認め其實行と普及とを希望せらるゝあらん請ふ自今一層奮勵して各々出來得る丈け同志を勸誘し衆力を結合せられよさらば次第に勢運盛に基礎堅まり本會の事業を擴張する又難きにあらざるべし、社會の事總べて單身孤力を以て成就するものにあらず殊に本會は一個人の私有にあらずして會員諸君の衆合躰なり故に本會の事業は悉く會員諸君の熱心に依頼せざるべからざるなり

私立 大日本婦人衛生會

廣告

○七月八月は毎年休會の規則なれども來七月に臨時會を開き有名の諸先生を聘して御講演を願ふとに致候間御來會被下度尤も會場は華族女學校にして第一土曜日午後一時より例の如く開會可致候

○今度雑誌一號を再版致し候間御望の方は代價を添へ(一冊拾錢)御申越相成度候

○上段に申述べ候如く會員の御方の御盡力にて入會望みの方有之候得ば何卒事務所迄御申込相成度候

○會員諸君にして御轉居の際何等の御報知なき方多く雑誌配送其他種々差支候間其際には必ず御報知被下度候

○會費御不納の方は至急事務所まで御送附被下度爲替は總べて芝口郵便局宛に願上候

○本會の事業に付き事務に付き御心付の事有之候はゞ御遠慮なく御申越被下度御書面にても御口上にてもどちらにても宜敷く御座候

京橋區日吉町八番地
私立 大日本婦人衛生會

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

前中央衛生會々長 従三位 細川潤次郎君題辭
衛生局長 従四位 長與專齋君序文
侍醫ドクトル 萩原三圭君校正
衛生局員醫師 渡 忠純君譯稿

衛生教育 婦嬰鑑 一名 母の教

上編 正價金三十錢 中編下編近刻

此書の原本ハ索遜國王陛下の侍醫ドクトル安門氏の著述にして。婦人小兒の道に志篤き萩原先生が三年前彼地に在りし時既に第二十七回の出板を見られしに今又此第二十九板を得られたるを以ても。需用の斷へざる稀有の良書たるを知るべし。書中説く所ハ婦人の婚姻に始まり。妊娠中の養生。出産前後の注意。赤兒の看護養育より。漸々生長して幼稚園に到るまでの間。身躰の衛生ハ勿論。精神敎育の端緒をも正しく詳にせり。然れバ之を婦人必讀といふも可ならん乎。文章ハ平假名付にして讀やすく解しやすし。男子も亦一讀せバ全家の都合に於て參考となるべし。萩原先生ハ筆執る暇の乏しきにも拘らず此書の世に擴がらんことを望まれしが渡先生の譯稿を供へて校正を乞ふと細川長與兩公の贊成とに由て深更剪燭の勞を取られしとなり

弊舗等發兌の榮を蒙りて爰に之を廣告す

馬喰町 島村利助
本郷春木町 島村支店
日本橋通 丸善

私立大日本婦人衛生會事務所
東京日吉町八番地女學雜誌社内

本會雜誌編纂委員 荻野ぎん子 鈴木まさ子

發行所 東京京橋區日吉町八番地 私立大日本婦人衛生會

編輯兼發行人 東京京橋區日吉町八番地 嚴本善治

印刷人 東京芝區源助町拾壹番地寄留 森田豐

遞信省認可

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN